

『ソク・サバーイ！ 続カンボジア・サッカー見聞録～牛の
向こうに未来が見える～』 Vol. 6

● J F Aサッカー 1級審判インストラクター 唐木田 徹



初心者講習会。全員で記念撮影

みなさん明けましておめでとうございます。

この号が掲載される時は、もう2010年を迎えていますね。年
末年始はいかがお過ごしでしたか？

ここカンボジアは……普通の日々が続いています。カンボジアは
仏教国（95%）であり、クリスマスの風習がまだ根付いておらず、

また正月が4月のため、年末年始もただの12月31日と1月1日
でした。私はNHKで除夜の鐘を聞き、少し雰囲気味わいました。
しかし、「明けましておめでとうございます！」と言われても、時差
があるのでこちらはまだ22時、ちょっと複雑な年越しです。



研修会恒例のエキップメント配布

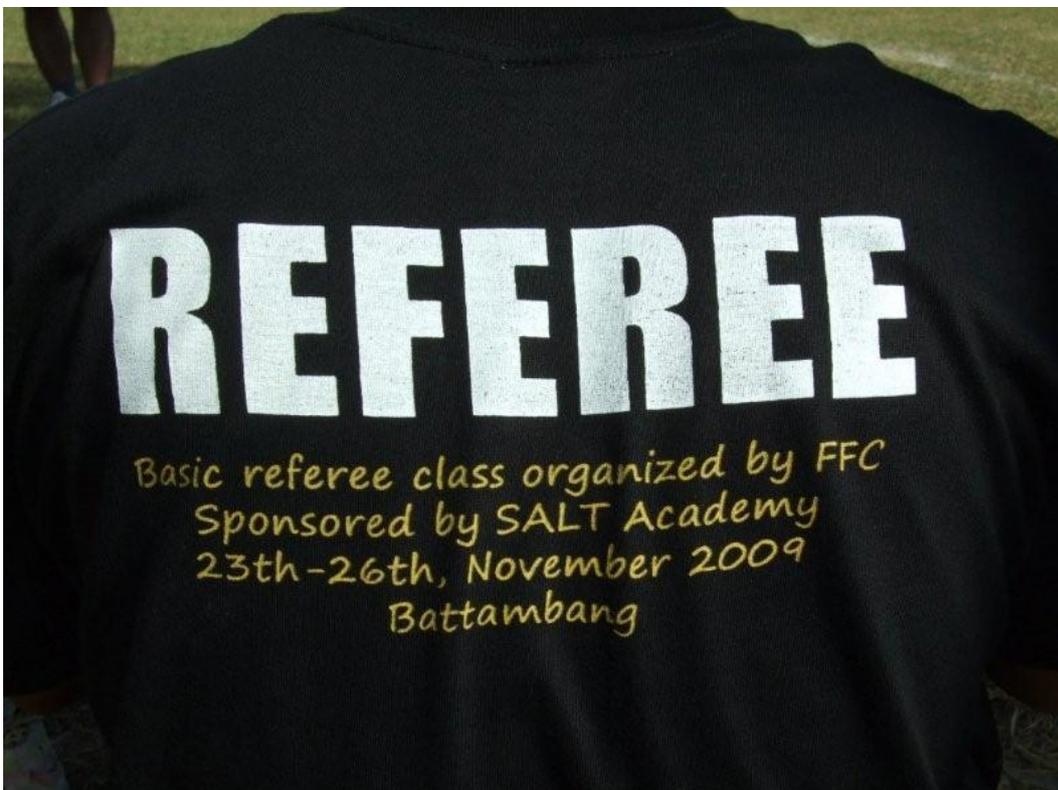
さて、今回は初心者講習会のお話です。

私の仕事の一つに、「新規審判員の発掘と育成」があります。既存
の審判員の育成・強化とともに大事な仕事です。

08年に最初に赴任した時、五つのセミナーを計画してサッカー
連盟に提出しました。しかし、「予算が足りないので三つにしてほし

い」とのことで、三つにして再提出すると、「ちょっと財政が厳しいので一つにしてくれ」。“これでどうだ！”と再々提出したら、「今回は見送りということで……」。“なんじゃそりゃあ!!”。

つまり、今回初めて実現したわけです。もっともNGOがスポンサーとなって資金を出したようですが。



こんなシャツやパンツ、シューズ、筆記用具などが配られます
場所はバタンバン州、首都プノンペンから300kmほど北西
にありカンボジア第2の都市です。数年前まで反政府組織（ポルポ
ト派）の活動拠点でしたが、今はほぼ一掃され、観光客も訪れるよ
うになりました。期間は4日間、受講生は30名のはずが、「ちょっ

と増える」「もう少し増える」と、結局43名でした。私とインストラクター見習い中の2人のカンボジア人が講師です。

スケジュールは朝7:30から11:00まで講義、14:00から17:00までが実技です。



映像を使ってディスカッション

いつもそうですが、私の講義は形式にとらわれず（形式無視?）、まず実践的な事例を紹介し、受講生の意見を聞き、判定の根拠、ルールの条文の解釈を解説します。カンボジアの学校では、完全一方通行（教師が喋り板書して生徒が書き写す）らしく、なかなか意見を発表しようとしませんが、「審判は判定することが任務」と促し、

「私は正解を聞きたいのではない。みんなの意見を聞きたいだけだ。みんなが正解を言えるのなら私がここにいる必要はないでしょ」と励ますと、チラリホラリと意見が出始めます。カンボジア人は、実は議論（口論？）好きです。誰かが話し始めると、どんどん意見が出てきます。そのうち、話を混ぜっ返す輩も出てきます（何を言っているのか私には分かりませんが）。まあ盛り上がっているのです、少し大目にみます。



実技のウォームアップ風景。バラバラですが……

昼休みをはさんで午後の実技です。女子8名を含めて約40名に、オフサイドと主審の動きをメインに教えます。オフサイドは簡単な

ものから徐々に複雑なものへ、選手役と副審、それをチェックする人の3グループに分けて回していきます。ビデオで撮影しているせいもありますが、異様に盛り上がります。慣れない副審に判断を誤ったり、途中で旗を降ろしてしまったり、それを見てはやし立てていた者が今度は副審でへマをしてまた盛り上がったり。翌日の講義でビデオ分析した時、それはそれは大盛り上がりでした。おそらく、彼らは誰一人ビデオに映った自分を見たことがありません。判定の分析もさることながら、彼らには良い思い出?になったのではないのでしょうか。

ゲーム形式で主審の動き方を教え、副審をつけて回していきます。とにかく人数が多いので、一人5分程度ですが動きのポイントを教えます。反則かどうかというよりもどこで見るか、どうやって動くかを教えます。時間が限られていることと、その後のサポートが難しいので、「良いポジション」を身につけることを最優先しました。“4日もあれば十分だろう”と思っていましたが、通訳が入ることと、思った以上に彼らの基礎知識がなさすぎたこと（何しろトップリーグでさえコーナーキックはどちらから蹴ってもよい、でやっていた国ですから）で、時間が足りなくなりました。

最後に知識のまとめにと、超簡単問題15問テストを行いました。
なぜ簡単かと言えば、4日間繰り返し繰り返し喋り続けたこと（キーワード）を、試験直前にもう一度繰り返してテストをしたのですから（いわゆる4級取得講習会形式？）。

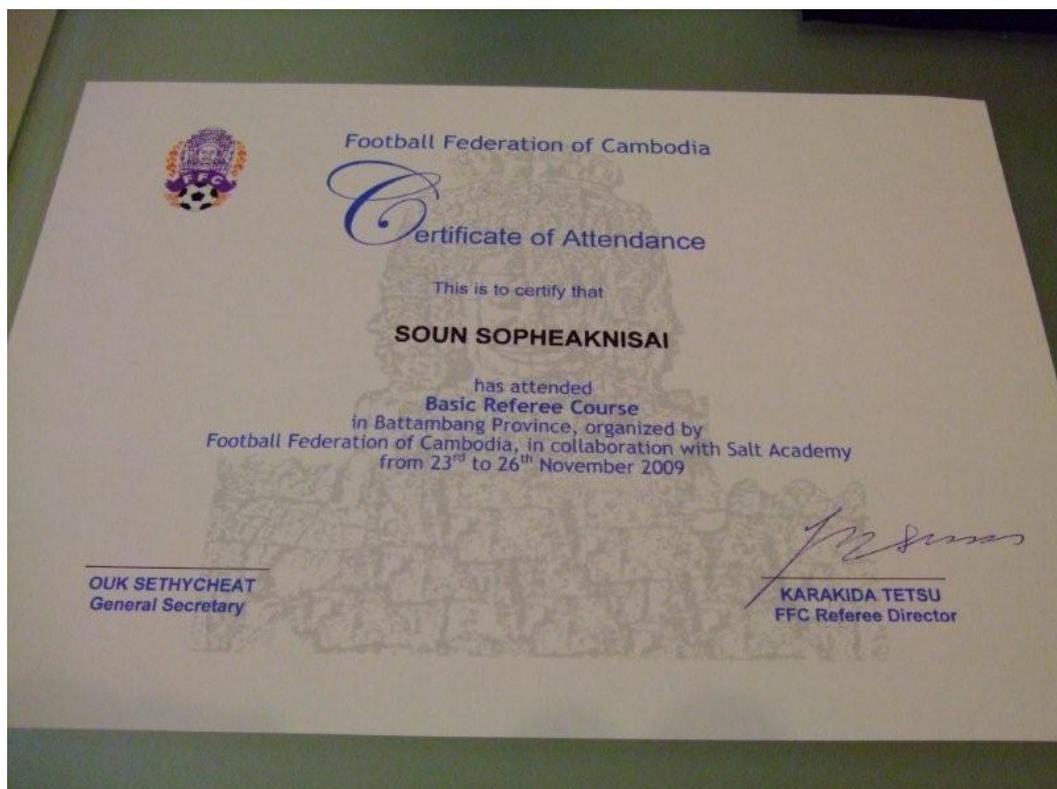


最後に試験。カンボジア式ではなく、カンニング厳禁です。ここだけは
コーポレーションなし

しかし、そこでも問題が発生。「字が書けない人が二人いる」とのこと。そのうち一人は、小さい時に親にタイへ売られ、NGOが引き取って施設で暮らしている15歳の女子です。彼女はカンボジアへ戻ってきたのがすでに大きくなってからで、小学校へ行く機会を逃したために読み書きができません。読み書きができなければ、物

事をどうやって記憶し学んでいくのでしょうか。アシスタントがサポートして問題を読んであげ、答えを書いてあげましたが、正解はわずか2問でした。60歳以上の文盲率は高い（フランス統治下の時代に現地人に対する教育がなされなかったため）と聞きましたが、こんな若い世代にも内戦、内戦後の混乱のツケが回ってきています。

彼女はプレーヤーとしては有能で、女子のナショナルプレーヤーとのこと。このことをステップに、未来を切り開いてもらいたいものです。



修了証がもらえます

※『ソク・サバーイ』とは、クメール語で「元気です」「元気ですか？」（正式にはソク・サバーイ・テー？）の意。